

がんサバイバーシップ研究助成金

研 究 報 告 書  
(平成27年度)

平成28年 4月 20日

公益財団法人 がん研究振興財団

理事長 高 山 昭 三 殿

研究施設 静岡県立静岡がんセンター研究所

住 所 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007

研究者氏名 北村 有子



(研究課題)

(10)在宅療養におけるがんサバイバーシップに関する生活支援機器や情報のニーズに関する研究【がんサバイバーのための処方別がん薬物療法説明書の開発】

---

平成27年 7月 8日付助成金交付のあった標記研究課題について研究が終了致しましたのでご報告いたします。

### 【研究内容と成果】

がん薬物療法の大部分を占める多剤併用療法について、患者・家族の視点で、個々の療法に関してまとまった知識を得ることができる冊子がない。そこで、多職種で一貫した情報提供と対処が可能となるよう、がん薬物療法の処方別（療法別）説明書のドラフトを作成した。多職種の意見より、冊子の基本枠組みを(1)疾患の理解、(2)治療の目的と効果、(3)使用する薬剤、(4)予想される副作用一覧、(5)副作用別の対処と工夫、(6)医療費など生活面とした。多くの内容を盛り込んだため、ページ数は約 60 ページになった。

作成した 4 療法のうち、3 療法は臨床研究として患者評価を受けた。治療前に対象の療法の冊子を患者に手渡し、使用方法を伝え、また医療者は患者説明の際に冊子を用いた。各療法の 3 コース終了後、20 人（男性 15 人、女性 5 人、年齢中央値 65 歳）にインタビューを行った。4 段階評価結果は、役に立つと思うかについて(n=18)、「とてもそう思う」56%、「そう思う」44%、副作用の対処をしやすくしたかについて(n=17)、「とてもそう思う」23%、「そう思う」53%であった。自由回答では「対処法、予防法が具体的に書いてあり参考になった」、「食欲不振の内容がとても参考になった。具体的に書いてあり、安心感につながった」、「冊子は最初に目を通しただけ」、「必要な部分を適宜読んだため、量もこの程度で問題ない」、「脱毛のところは写真が多くて分かりやすかったため、写真がたくさんあったほうがよい」、「表紙に要約が書いてあるとよい」、「限度額適用認定証は“初めに用意”と書いてくれるとよい」などの意見があった。

### 【今後の課題】

患者、医療者の意見を参考に、冊子の構成内容や表現を修正する。患者は、冊子が役に立つという認識はあるが、情報量の多さにより、十分な活用に至らない場合もあった。冊子の基本枠組み(4)予想される副作用一覧のような集約された情報は、活用度が高く、情報を要約したページを設けるなどの工夫が必要と考える。また、(5)副作用別の対処と工夫は、副作用別に探した場合は読みやすいが、時期別には探しにくく、特に、治療前の予防、例えば口腔ケアなどを患者が意識して行動するには、どのような示し方がよいか再度検討する。今後、使用頻度の高い約 50 種を目標に対象の療法を拡大する予定である。